

## e-learning コンテンツ作成に伴う Kick off Meeting (確定)

日 時 : 令和5年9月11日(月) 13:00~15:00  
形 式 : ハイブリッド会議(現地+Zoom)  
場 所 : 日本薬学会長井記念館 薬学教育協議会事務局(ホスト会場)  
出席者 : 別記1  
配布資料 : 別記2

### 1. e-learning コンテンツ制作、構築スケジュールについて(資料1、資料2)

資料1及び資料2に基づき、(株)ホサカ、(株)カビネットより、スケジュール表はA3の3枚、期間表示は9月~3月末まで、項目をカテゴリー分け、重要ポイント、業者側の担当期間、協議会WGの担当期間等、表の見方について説明があった。

なお、教材の構成プラン、管理方法の運用プラン等により作成方法や準備が変わるため、9月25日頃に本件の打合せをしたいことの要望があった。

スケジュール表から、各種制作原稿・素材等の提出期限では初回9.29、最終は10.23であった。受領した原稿等の確認・調整10.25、制作プロジェクト中間報告11.20、クラウド運用関連データ提出期限12.07、クライアントチェック開始12.15(最適化の確認を開始する。)、終了1.19、問題なければ稼働開始2.01となる。そして、3月31日をもってこのプロジェクトは一応終了となる旨、制作担当者側からではあるが、プロジェクトの終了や完成した成果物の納期等を逆算し、工数の関係を踏まえ作成したスケジュール案であるが、制作担当側の考えでは、出来るだけこの案よりフライング気味に作業を進める予定で動きたいとの説明がなされた。

また、クラウド関連データのご提示をいただいた後に確認作業を行うが、その進捗にもよるが12月15日頃に打合せをしたいとの要望もなされた。

#### 主な意見の提示

- ・10タイトル100頁予定であるが、総合的に患者生活者3点 e-learningWGで7点だ、初めての打合せであるので確認した。教育コンテンツWGでは具体的に考えているか。
- ・今日初めて聞いたので具体の出来上がりイメージを教えて欲しい。
- ・パワポ等でどこかで動画を収録して何分の物を作るというイメージではないのか。
- ・使う側がどんな感じで使うかという視点ではどのようなものができるのか。
- ・e-learningWGコンテンツでは、こういった形だというサンプルを視聴している。
- ・教育コンテンツWGでは昭和大学の動画を活用することもイメージしているのではないか。
- ・生涯学習コンテンツ作成で講師の講演を収録するコンテンツ作ったが、そうではないのか。
- ・パワポやその他の資料を提供して先生が説明する動画をコンテンツにできないか。
- ・講師の講演を動画とした教材を e-learning と考えていた。
- ・サンプルではコンテンツをスタートしてテキストが出る。必要に応じ補助動画を嵌め込むことも可能のようだ。

- ・音声というよりテキストが流れる印象。大きいテキストは入らないだろう。
- ・視聴ではテキストを追いながら必要に応じ補助動画を見ることが基本と感じる。
- ・ナレーションは、業者側で入れるのか。
- ・ナラティブを実際の声でという要望があれば、そこは、動画にすればよいのか。
- ・プロダクトは一本化する。同じスタイルでやる理解でよいか。
- ・e-learning がベースで動いている。教育コンテンツWGは昭和大学作成内容をベースに、活用を検討し解説を加える。一つの枠に同じようなスタイルで嵌め込む方向か。
- ・10 タイトルの三つが総合的に患者・生活者を見る姿勢で、e-learning に載せなければとは考えていない。教育コンテンツWGでe-learning にする場合の準備があるということだ。
- ・総合的に患者・生活者を見る姿勢を講義スライドで、工程を示すオンライン形式として入れ込むこと。
- ・利用方法や学修方法として、SGD で昭和大のビデオと共に動画を見せ、レクチャーして、活用を含めた解説を付ける。在宅で話している内容も加えるという理解でよいか。
- ・e-learning の枠と別にそのような物を形にした後、合体させる理解でよいか。
- ・e-learning にしなければならないということではない。e-learning の形式であれば、お願いできるので先生方の負担も楽になるのではないか。
- ・e-learning の考えが、教育コンテンツWGで共有されていない現状だ。
- ・教育コンテンツWGは、テーマを踏まえ、実際に考え、話し合うコンテンツにする方向だ。
- ・今回、e-learning の可能性があればよい機会であると考えた。
- ・e-learning は幅が広く、短い動画を合わせる工夫ができる。枠が決まっているとの確認ができ良かった。
- ・先生方のイメージは、ある先生に決まったテーマで10分間話してもらい、次はこの先生といった運用を決めておく、一定の講習というイメージで捉えられているのではないか。
- ・少し違う。対象が教育する側のFDに活用すること。
- ・使う動画の用意と、それを活用する教育方法やスケジュールの組み方で、学生が主体的にディスカッションするという活用方法だ。
- ・このコンテンツ自体がFDと学生向けの二つの要素があり、e-learning コンテンツWGは学生向けe-learningを作る形で進んでいる。
- ・プラットフォーム(置き場所)は、一括、同じ場所で、更に、分岐を設けることはできるか。
- ・ゲートルクラスルームで教員と学生が仕分けされているイメージだ。
- ・教育コンテンツWGは、教材として「認知症のお婆さんが一人暮らしをしている。」という題材の動画がある。
- ・総合的に患者・生活者を見る姿勢に繋がる「教科書ガイド」を付けると効果的だ。
- ・この動画等もすべての置き場所のベースがムードルなのか。
- ・e-learning コンテンツWGでは、ユーザーのアカウント等を協議会で管理することは無理ではないか。トータルのユーザー数を考えるべきだ。

- ・教育コンテンツ WG では、具体的なコンテンツの話題は出ていない。
- ・実際は運用によると考える。ユーザー管理自体を各大学で必要とするかを含め、決めなければならないのではないか。
- ・次回の打合せはその辺を決めたいがどうか。
- ・e-learning 教材として動画、スライド、〇×クイズ等の形式があるが、e-learning 教材の枠の中に全部入っているイメージでよいか
- ・e-learning に馴染まないという話が教育コンテンツ WG であった。入ることが絶対とは思っていないがどうか。
- ・入る部分もあるが、入らない部分もあると受け止めている。
- ・入った方が良いのであれば、教育コンテンツWGにお願いするがどうか。
- ・教育コンテンツWGは、今までなかったものを作るとのことだがいかがか。
- ・締め切りに合わせて粗雑なものができるより、シッカリした物を作る方が良いがどうか。
- ・e-learning にしなくても良いということで話をしていた。
- ・締め切りには間に合わないだろう。出せないのではないか。
- ・教育コンテンツ WG は、新しいものを生み出すことをメインで議論していた。
- ・枠というより何が必要か、コアな部分は出す。継続させる部分もあるということだ。
- ・枠を決めた上であれば、クラウドに載せてという方針を決めていただきたい。
- ・スケジューリング等も e-learning コンテンツ WG の内容は伝わっていないがどうか。
- ・今回、纏めて載せてメリットが大きいのであれば一緒にした方が良いがどうか。
- ・二つのWGで話さないと決められないのではないか。
- ・教育コンテンツ WG と e-learningWG の内容が繋がるか見えていない。全体が繋がれば、一緒にした方が良いのではないか。
- ・コンテンツの繋がりには基本的に無い。纏めてアップすることは考えなかったがどうか。
- ・データサイエンスは社会薬学的な視点を入れた内容で作成することはいかがか。
- ・全体像は必要ではないか。
- ・技術的なことで纏めた方がよいということはあるか。
- ・教育コンテンツ WG は新しい事柄である。
- ・教育コンテンツWGも e-learning の流れに乗らなければならないのか。
- ・e-learning コンテンツWGで先行し、その後、教育コンテンツWGを追加で載せることはダメなのか。
  - ・キックオフミーティングがあり少し理解できた。
  - ・ギリギリの締め切りは何日頃になるのか。
  - ・その都度、確認し検討いただくようにできないか。
  - ・使う側ではないが、良い物を作りたい。
  - ・既にできている昭和大のコンテンツをその枠に入れて、出来るのではないか。
  - ・教育コンテンツWGで情報を共有すべきではないか。

- ・全体で決めていただければ、動けるがいかがか。
  - ・e-learning コンテンツ WG を中心に話を進めてよいと理解したがどうか。
  - ・これは、文科省の事業費で e-learning コンテンツ作成と公告されていた。CD 等を媒体して、各大学が入る形式に変更することは問題ないだろうか。
  - ・問題ない。コンテンツ作成であり、e-learning のカテゴリーがあるということだ。
  - ・自由度があるということか。
  - ・教育コンテンツも e-learning で作成できれば載せたい。
  - ・少しあるが、教育コンテンツ WG との棲み分け等、共有できたのではないか。
  - ・運用面、アカウントを基本的には発行することをベースで考えるが良いか。
  - ・協議会がホストとなり、各大学に管理者アカウントを置くという話だがどうか。
  - ・難しい大学はあるが、アカウント管理をフリー教材の形式にすることは技術的に可能か。
  - ・薬学生の定員で学年も跨ぎ、大学の規模も異なるがどうか。
  - ・私学と国公立の設置形態とスタンス、考え方が違うこともいかがか。
  - ・e-learning を使うことで手間が発生すれば、大学側では大きなファクターになるがどうか。
  - ・一番簡単な方法は、アカウントは、学生アカウント一つとし全員が入る。その際、排他情報制御が掛からないことが大前提だがいかがか。利用するかどうか大きく分かれてくる。
  - ・どちらを優先すべきかの問題だ。修了証書を出すのであれば、アカウントを発行し視聴歴のあるログを確保。大学ごとに管理者側のロールが発生するとどうなのかを考えるがいかがか。
  - ・共通アカウントで入りコンテンツの視聴をすべて行い、証明書発行する時は自分のユーザー名を入れ、入力したユーザー名で証明書が発行されるということは可能。
  - ・大学が 79 大学ある。作ったコンテンツを多くの方に利用して欲しい。ユーザー側に手間がかからないことが非常に大切だ。そこら辺の検討をいただきたい。
  - ・次回の委員会は 20 日の水曜日で、対応をお願いしたいがどうか。
- 木下委員長より、「情報・科学技術を活かす能力」の教材作成に関しては、システム使って進める方向であることについて発言があり了承された。

## 2. 制作などのプロジェクトの進め方について（協議会、制作側の役割分担）（資料 3）

### 3. 直近のスケジュールについて（原稿提出、次回予定）

木下委員長より、本日、ロードマップからタイトなスケジュールだが、項目については議論が進んでいることから、Docs に挙がっている沢山の意見をベースとし、提示の形式に充て込んでいき、必要に応じ動画作り、テスト的な内容を設けることの確認がなされた。

また、現在 10 タイトル 100 頁と提示があるが、1 頁当たりのテキスト標準量や、動画や画像作成に関する役割分担について(株)カビネットより説明がなされた。

(株)カビネットより、資料 3 に基づき①プロジェクトのチーム体制 ②主な制作の役割分担として WG 委員に対し、○打合せの参加 ○制作や教材プランの策定 ○素材や資料の提供 ○動画の提供 ○各種確認作業 ○運用開始判断等の依頼を、また、業者側は WG 委員に対応した。各

種調整 ◦各種作業 ◦原稿頁の構成 ◦動画制作 ◦ナレーション設定 ◦ コンテンツのスコム形式へ返還 ◦動作チェックと修正等 ◦コンテンツ搭載及び関連設定等について実施する等、詳細に説明がなされた。また、提示した各項目の工程スケジュールは(株)ホサカ、(株)カビネットの一方的な都合により示した内容であり、先生方のチェックをいただく時期、終了の時期その後にシステム上で確認後1月末の納品である旨の説明が併せて行われた。なお、専用のメーリングリストを用意することの申し入れがなされた。

説明後の主な意見

- ・パワポや文字の制限は特にないか。
- ・パソコンで見たときの大きさが良いか。文字制限も無いし、動画の長さ制限も無いということが良いか。
- ・一般的に文字数や動画の指標はないか。提示いただければ作りやすいがどうか。
- ・WG 委員から原稿と素材等提供を受けるが、動画自体を委員が作るということか。
- ・ソフトウェアは一般的ではないかもしれないということか。
- ・ソフトウェアの動画、書籍やウェブサイトを組み込む場合の問題。書籍は出版社側の転載許可。使えるコンテンツ、使えないコンテンツがあるか等著作権の権利問題はどうか。
- ・その他、委員の先生方がイメージされているものがあれば・・・。
- ・ビックデータ使う際だったが、ソフトウェア上の権利もそうだが、データ自体も厚労省の利用規約があり、慎重な対処が必要だった。検討いただきたい。
- ・先生方には Docs で意見を募っている。テキストをそのままでも検討いただけるか。
- ・出来上がりをイメージできないがどうか。
- ・イントロ部分を協議いただき。少しでも見るように考えているがどうか。
- ・委員側からは、現状出ている意見を共有し、方向なりを決めて提示したいがいかかが。

○木下委員長より、全部を一気には現実的ではない。イントロの充実は当初からの設計であることから、三名の先生方がイントロ部分の担当であるが、委員全員でイントロの方向性を確認いただき、原稿を提出させていただき方向で進める旨、発言がなされ了承された。

特にイントロ部分を、「Society5.0をはじめとする未来社会のイメージ」をご担当される三名の先生方に提示いただき、次回委員会で意見交換の上、第一弾として提供するというロードマップで進めることが了承された。

更に、木下委員長より素材、動画、サイト等が良いのではないかと、フリーで書き込んでいただきたい。含めるかどうかは今後の検討であり、何も無いと議論も進まない旨の発言が併せて行われた。

#### 4. その他

- ・次回の e-learning コンテンツ作成 WG 開催は、9月20日10:00～12:00
- ・進捗の中で、大学の ID アカウントを提供しない場合等、少しでも素材提供等のデッドラインが後ろにずれることが可能とならないか。

別記 1-1

## e-learning コンテンツ作成に伴う Kick off Meeting (9月11日)

一般社団法人薬学教育協議会

e-learning コンテンツ作成ワーキンググループ			
構成員氏名	所 属	出欠席	備 考 欄
木下 淳	兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野	現地	
今井 志乃ぶ	昭和大学薬学部門薬剤疫学部門	—	大学業務に従事
近藤 悠希	熊本大学大学院薬学教育部臨床薬理学分野	現地	
酒井 隆全	名城大学薬学部医薬品情報学研究室	現地	
出口 芳春	帝京大学薬学部薬物動態学研究室	Web	
原口 亨	公益社団法人日本薬剤師会	Web	
細谷 治	日本赤十字社医療センター薬剤部	現地	
松野 純男	近畿大学薬学部医療薬学科	Web	
本間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	現地	
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		
e-learning コンテンツ作成業者 ○株式会社ホサカ ○株式会社カビネット			

別記1-2 e-learning コンテンツ作成に伴う Kick off Meeting (9月11日)

一般社団法人薬学教育協議会

教育コンテンツ作成ワーキンググループ			
構成員氏名	所 属	出席	備 考 欄
亀井 美和子	帝京平成大学薬学部	－	大学業務に従事
有田 悦子	北里大学薬学部医療心理学部門	Web	
亀井 大輔	昭和大学薬学部薬学教育講座	－	大学業務に従事
川名 三知代	ココカラファイン薬局砧店	現地	
岸本 桂子	昭和大学薬学部社会健康薬学講座	－	大学業務に従事
篠原 久仁子	恵比寿ファーマシー	－	本務業務に従事
本間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	現地	e-learning コンテンツ作成WG と兼務
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		
e-learning コンテンツ作成業者 ○株式会社ホサカ ○株式会社カビネット			

**別記 2 e-learning コンテンツ作成に伴う Kick off Meeting (9月11日)**

<配付資料>

資料0 e-learning コンテンツ作成に伴う Kick off Meeting 議事次第

資料1 ミーティングアジェンダ 2023.09.11(株)ホサカ、(株)カビネット)

資料2 eラーニング教材開発プロジェクトスケジュール **【2023.8.1～2024.3.31】**  
第1版 2023.09.11(株)ホサカ、(株)カビネット)

資料3 キックオフミーティング説明資料 2023.09.11(株)ホサカ、(株)カビネット)